

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は様々な病原体によって起こりますが、ウイルス性胃腸炎の場合、主要な病原体はノロウイルスとロタウイルスと言われています。2012年1月から2014年10月までの間に採取された感染性胃腸炎患者糞便から検出されたウイルスについて、年別、月別にまとめました。2012年、2013年はノロウイルス、ロタウイルスが多く検出されていますが、サポウイルスやアストロウイルス、アデノウイルス 40/41型、パレコウイルスも検出されています。2014年は、コクサッキーウイルス A10、エコーウイルス 11、ライノウイルス等いわゆる胃腸炎ウイルス以外のウイルスが多く検出されています。

また、月別検出状況では、ノロウイルスは1月、11月、12月の検出数が多くなっていますが、5月にも検出されています。ロタウイルスは1月から5月、特に4月に多く検出されています。それ以外のウイルスでは検出数が少なく季節的な特徴は見出せませんでした。

これから感染性胃腸炎の流行時期となるため、ウイルスの流行状況、遺伝子変異の状況を把握するためにも、病原体定点医療機関の先生方におかれましては、検体採取にご協力をお願いいたします。

年別ウイルス検出状況(2012年1月～2014年10月)

年	検体数	ノロ	サポ	アストロ	ロタ	アデノ 40/41	パレコ	その他
2012	42	15	3		4		2	
2013	38	8	4	2	7	1		2
2014	53	4		2	1	4		8

